

FAX送信先  
【福岡県立社会教育総合センター研修・情報室宛】

092-947-8029

中国・四国・九州地区 生涯教育実践研究交流会第33回大会 【参加申込書】

※提出期限：平成26年5月9日(金)

※個人情報は大大会に関する事以外での目的では使用いたしません。 ※複数名で申込される方は、こちらをコピーしてお使い下さい。

ふりがな	性別	男・女
氏名	年齢	歳
所属・職名	【所属】	【職名】
住所	〒 _____ *今後、継続して案内を希望の方は自宅の住所をお書き下さい。(名簿には掲載しません)	
	連絡先(職場・自宅・携帯) 電話番号( _____ )	

大会の出欠等 ※希望する事項に○を付けてください。

	前日 5月16日(金)	1日目 5月17日(土)	2日目 5月18日(日)
大会参加(参加費[1,500円] ※但し学生[1,000円])		出席・欠席	出席・欠席
朝食希望[400円]		有・無	有・無
昼食希望[600円]		有・無	有・無
情報交換会 &第33回大会交流会	出席・欠席 情報交換会[2,000円]	出席・欠席 大会交流会[3,600円] 但し学生[2,000円]	QRコード 料金計算が できます。
宿泊希望[120円](1泊2泊とも)	有・無	有・無	

■【申込について】申込方法は、次の2通りです。[ゆうちょ銀行による払込]に御協力願います。

- ①「ゆうちょ銀行払込」による申込 [5月9日(金)まで]
- リーフレットに添付している、払込取扱票に必要な事項、参加費、大会交流会費等の合計金額を記入し、「ゆうちょ銀行」にて払込ください。
  - ※ 払込取扱票のご使用は一人につき一枚といたします。団体でのお申込は、福岡県立社会教育総合センターまで、お問合せください。
  - ※ 払込取扱票は参加申込書を兼ねています。別途参加申込書を提出していただく必要はありません。
  - ※ 領収書は、「ゆうちょ銀行」から返却される。振替払込請求書兼受領書をもって代させていただきます。
  - ※ 払込手数料は、参加者負担とさせていただきます。
  - ※ 申込み受付後、参加費、食費代、大会交流会費等の返金はできません。ご了承ください。

- ② FAX、電子申請(HP「ふくおか社会教育ネットワーク」)による申込
- ※事前に申込書を提出。大会当日、参加費、食費代、大会交流会費等をお支払いください。当日受付も可能です。

- 留意事項
- ①大会参加費は一律(1日、2日参加とも)1500円です。
  - ②タオル・歯ブラシ等、身の回りの品はご持参ください。石けん・シャンプーは用意しております。



問い合わせ先  
福岡県立社会教育総合センター 研修・情報室  
〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2  
TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029

生涯教育・生涯学習の実践が集う

中国・四国・九州地区

# 生涯教育実践研究交流会 第33回

日時

平成26年 5月17日(土)・18日(日)  
【情報交換会 5月16日(金)】

場所

福岡県立社会教育総合センター  
(福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2)  
TEL/092-947-3512 FAX/092-947-8029

日程・プログラム

19:00-20:00 5.16 FRI 情報交換会	20:00 実行委員会	5.17 SAT	9:30 受付	10:15 開会式	10:45 実践発表①	12:30 昼食	13:30 受付	16:15 実践発表②
16:30 終日 特別報告 「心の危機」を予防する -認知症に見入る、認知機能、認知行動について-	17:00-17:30 フリータイム	17:30-20:00 5.18 SUN 第33回大会交流会 全体会 個別	8:30-9:00 受付	特別企画(実践発表、インタビュー、ダイアログ) 「知能を支える、ホラーを越える」 1 若者支援のフロンティアに挑む 山口 仁(空のシニア・アド・サポートフェイス代表理事) 2 過渡期の教育振興に挑む 岩本 悠(福岡県立警察総合 認知能力アブテナー) 【コーディネーター】 三浦 清一郎(月刊生涯学習雑誌「風」の編集長)	11:30 総括 閉会式	12:00 昼食		

主催 福岡県教育委員会 日本生涯教育学会九州支部  
主管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第33回大会実行委員会  
福岡県立社会教育総合センター

# 急激な社会変化の中では「前年並みは後退」です ～「攻め」と「発想の転換」を!!～

昭和46年に国の社会教育審議会が「急激な社会構造の変化に対処する社会教育の在り方について」を答申して40数年過ぎました。答申後の社会はさらに変化し続けています。本大会はまさにこの急激な変化と共に歩いてきました。

急激な社会変化は、急激であればあるほど施策も実践も「前年並みは後退」になります。32回大会までに発表された797本の実践事例は各県の実行委員の皆さんの大変なご尽力で、常に社会の変化を見据えた先駆的、モデル的なものでした。

急激な社会構造の変化は、農村型社会を一挙に都市型社会に変え、交通・流通の革命を起こし、情報化・国際化を進展させ、少子高齢社会をもたらし、生涯学習格差を助長してきました。人々の生活も、価値観も一変し、流動化、陳腐化、無境界化が進んでいます。それだけに節目の第30回大会で掲げた大会コンセプト「未来の必要」の精神は、以後の大会へと引き継がれ、問い続けられなければなりません。

第33回目の本大会も、各県の実行委員さんのお骨折りにより素晴らしい実践が集まりました。毎年のことながら感謝しています。特に、2日目の特別企画には、全国の家庭が、学校が、地域が抱える現代的課題に果敢に挑戦し、その実践の結果は全国的に評価が高い二人の若手実践家、佐賀県の谷口仁史さん、島根県の岩本悠さんをお迎えできたことを大変嬉しく思っています。二人の実践は決して「守り」ではなく「攻め」です。ピンチをチャンスに変える「発想の転換」が各所で見られます。

本大会は「言うは易く、行うは難し」を重視し「実践」にこだわってきました。

第33回大会を、参加者の皆さんの熱き「実践」の交流で盛り上げていただくことを期待しています。

代表世話人 森本 精造

5/16 (金)

情報交換会 19:00～

前日から宿泊されている方々と各県の実行委員会の皆さんとの情報交換会の場を設けました。一緒に食事をとりながら、心ゆくまで、ごゆっくり御相談ください。

5/17 (土)

開会式 10:15～10:45 2F講堂

午前 実践発表① 10:45～12:30

2階第4研修室 第1会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>「通学合宿」が目指す自主・自律の生活習慣と教育力ネットワーク</li> <li>地域の教育力を補完し、自身の生涯学習力を維持する土曜講座～退職校長会の地域貢献～</li> <li>社会教育は「民草」を育て、「民草」が地域を拓く～社会教育が生んだ自主組織「草社の会」の志と実践～</li> </ul>	熊谷 直久 (山口県宇部市) 鶴木 孝夫 (鹿児島県始良市) 松本 英俊 (長崎県)
2階自由研修室 第2会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事が「中学生ボランティア」を育て、「中学生ボランティア」が地域行事の「環」となる</li> <li>大学公開講座を横断する自主学习組織「六一会」の挑戦</li> <li>「青春部」が挑む地域交流～「無理せず」、「楽しく」、「若者が動く」～</li> </ul>	宮地 朝男 (佐賀県佐賀市) 佐々木 隆 (徳島県徳島市) 山口 智久 増本 唯史 石川 裕資 (鳥取県日吉津村)
4階視聴覚室 第3会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>親同士の絆を育む「ファシリテーター」養成事業～NPOがサポートする、2県にまたがった家庭教育支援～</li> <li>自他の子育てを振り返り、親の「気付き」を促す参加型学習講座「親プロ」の全町展開</li> <li>「はやめ南人情ネットワーク」が創出した認知症見守りの「大牟田方式」～地域再生大賞に輝く20年～</li> </ul>	三角 幸三 (熊本県全域長崎県全市町村) 米田 珠美 幅野 得恵 (広島県府中町) 汐待 律子 (福岡県大牟田市)
4階大研修室 第4会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しいまちづくり講座「大原維新」～参加型学習のワークショップの導入による地域コミュニケーションの活性化～</li> <li>サロンづくりからコミュニティ・ビジネスへの挑戦</li> <li>地域と学校の「互恵関係」を育む学校支援地域本部事業</li> </ul>	夏目 洋子 (福岡県福岡市) 藤田 直子 (長崎県川棚町) 中村謙太郎 (熊本県八代市)

## わたしのまちのポスター展

あなたのまちの「村おこし」や「まちづくり」また「人づくり」のイベントのポスター等で、あなたのまちの故郷自慢を広く全国にアピールしてみませんか？

- 参加資格 誰でも出品できます。
- 出品数 1イベント1点
- 提出方法 大会当日受付にお申し出下さい。
- 留意事項 ポスター・チラシに限ります。展示品は返却できませんので予めご了承下さい。

午後 実践発表② 13:30～16:15

2階第4研修室 第1会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>「笑わせたいわ笑学校」の基本理念と社会発信のための地域実践～「話し方教室」から「笑いを基点とした人間関係の創造」へ～</li> <li>プールが育んだ地域の伝統・人々の絆～「はやぶさプール祭り」44年の軌跡～</li> <li>「幻の淡水魚:アカザ」が町の自然を守る～「アカザ」を守ることで川を守り、川を守る活動で子どもたちが育ち、彼らはやがて未来のふるさとを守る～</li> <li>行政サービス機能を代替し、住民自らが地域課題の実働組織となる～中山間地域の自立への挑戦～</li> </ul>	マックビーン 光子 (大分県大分市) 西村 昭二 (鳥取県八頭町) 武貞 誉裕 (福岡県添田町) 中原 英樹 (山口県長門市)
2階自由研修室 第2会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>「南輝子どもステーション」～どの子ども輝ける居場所を目指す～</li> <li>学校が送り出す土曜授業の「地域体験活動」、子どもを通して学校が仕掛けた地域活性化戦略</li> <li>親の学びと家族の絆づくり～参加体験型家庭教育支援～</li> <li>古代史跡を巡るキッズ・アドベンチャー～少年自然の家が現代っ子につけつけた真夏の挑戦～</li> </ul>	古谷 義子 (岡山県岡山市) 中野 晃 (熊本県阿蘇市) 藤崎 路子 (宮崎県) 中本 祐二 (鳥取県琴浦町)
4階視聴覚室 第3会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働のまちづくりと男女共同参画のリーダー養成～協働の確立、ネットワークの形成、各地に育ったリーダーの活躍～</li> <li>木製玩具を活用した子育て支援グループの実践(仮)</li> <li>大学生による地域参画・地域交流が育む自助・共助のネットワーク～大分大学高等教育開発センターボランティアグループ「WITH」のまちづくり実践～</li> <li>公民館が紡いだ「目的録」の10年～住民による住民のための事業展開で、地域は力を蓄え、人々の縁は深まった～</li> </ul>	金折美津子 益田 徳子 (山口県山口市) 土屋 佳子 (沖縄県浦添市) 梶原 里穂 宇野 優希 山下 露姫 (大分県大分市) 竹谷 強 (島根県松江市)
4階大研修室 第4会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館を校内一素敵な場所に～「学校図書館デザインサポーター」の図書館活性化戦略～</li> <li>PTA「おやじ部」による教育力創造の挑戦～子どもが楽しむ!親も楽しむ!親子で楽しむ!～</li> <li>「体験」と「食」と「語り」で地域の子どもの育てる～保育所発「ふるさとの養育意識」の変革～</li> <li>学校図書館の手づくりリニューアルの奇跡～激変した読書意欲のBefore&amp;After～</li> </ul>	筑紫 紀子 (熊本県熊本市) 伊藤 憲一 (愛媛県西条市) 河野 利文 (島根県益田市) 峰 文子 (佐賀県伊万里市)

特別報告 16:30～17:00 2F講堂

「心の危機」を予防するー医者に見えない教育問題、教育者が気付いていない医学症状ー 報告者 三浦清一郎

第33回大会交流会 17:30～20:00 2F体育館

事例の発表者の方や、参加者の皆さん、各県の実行委員会の皆さんが一堂に集まり、交流を深める場を設けています。それぞれの実践について、語り合いませんか？きつと次の日からの実践のヒントが見つかります。多数の参加をお待ちしています。

5/18 (日)

特別企画 実践発表、インタビュー・ダイアログ 9:00～11:30 2F講堂

「発想を変える、ボーダーを超える」 下記登壇者等の役職名は、平成26年3月現在のものです。

テーマ①	若者支援のフロンティアに挑む
登壇者	谷口 仁史 (NPOスチューデント・サポート・フェイス(SSF) 代表理事)
インターネットを検索すると、様々な谷口仁史像が現れる。現行の相談事業やカウンセリングの「待ち」の姿勢を全面転換し、若者支援のフロンティアを開拓した。不登校、引きこもり、非行等さまざまな不適応問題に当面的な青少年を対象に「訪問型支援」に取り組んできた。具体的には、20代の若者を家庭教師として派遣し、個別クライアントにあわせた直接的な教育・相談支援を行っている。既存の相談事業や学校のカウンセリングプログラムなどと比較して、子どもの「改善率」・「社会復帰率」は圧倒的に高い。実績を評価され、佐賀県行政、厚労省行政との協働を開始し、相談・指導をニートの就労問題にまで広げて取り組み、大いに成果を上げている。子ども若者育成・子育て支援功労者表彰「内閣総理大臣表彰」を受賞。事業の理念、方法論の中核発想、クライアントとのコミュニケーションの方法、会員の研修、保護者からの反応の分析などと同時に、なぜSSFが提唱する「訪問型支援」が日本社会の主流にならないのかを聞きたい。	
テーマ②	過疎地の教育振興に挑む
登壇者	岩本 悠 (島根県海士町教育委員会 高校魅力化プロデューサー)
学生時代からアジア・アフリカを歩き、地域開発の現場を知っている。「流学日記」(文芸社/幻冬舎)を出版し、その印税でアフガニスタンに学校を作った(「こうして僕はアフガニスタンに学校を作った」、河出書房新社)。ソニーに勤務し、人材育成、組織開発、社会貢献事業に従事。2006年島根県隠岐郡海士町に移住。以後、「島前高校魅力化プロジェクト」に取り組み、プロデューサーとして過疎地の教育振興に挑戦した。全国から意志ある「脱藩生」を募集する「島流学」制度を立ち上げ、学校も地域も活性化することに成功している。プロジェクトの精神は「脱藩」に象徴される通り、既存の境界線(ボーダー)を超えることである。市町村は元より、県域も、学校教育も、社会教育も、関係機関の専門も、経済、労働、教育の分業の縄張りも越えなければ、過疎地の振興構想は実現できない。プロジェクトは、第1回プラチナ大賞・総務大臣賞を受賞した。日本の過疎、1万を越えた「限界集落」に、教育は何ができるのかを聞きたい。	
コーディネーター	三浦清一郎 (月刊生涯学習通信「風の便り」編集長)

総括開会式 11:30～12:00

## 「おらがまちの名物自慢」

あなたのまちの名物は何ですか？  
地酒・焼酎・つけもの・海産物……。  
毎回、参加者がお国自慢の品々を持ち寄り、その数なんと、約100個。

「競り市」での競売もよし、「交流会・2次会」での酒肴でもよし。  
ご持参くださる方は、大会当日、受付にて、「所属・氏名」「物産品の品名」「セールスポイント」をご記入の上、ご提出下さい。

